

術後 6 日目に血栓摘除術を要したバージャー病に対する内側足底動脈バイパスの 1 例

獨協医科大学病院ハートセンター 心臓・血管外科

緒方孝治（おがた こうじ）

武井祐介，柴崎郁子，栗田俊之，堀 貴行，小川博永，金澤祐太，菅野靖幸，福田宏嗣

症例は 50 歳男性。平成 23 年 3 月に右足部虚血性壊疽で右下腿切断術を受けた。その際にバージャー病と診断された。平成 28 年 1 月より左足痛が生じ，4 月に左腰部交感神経節ブロックを受けた。その後，左第 1 趾は壊疽となり，6 月に当院形成外科入院，高圧酸素療法開始となったが，改善乏しいため，血行再建目的に当科へ紹介となった。血管造影は，左前脛骨動脈起始部閉塞，後脛骨動脈末梢部閉塞，腓骨動脈中間部閉塞の所見で，側副血行により足底動脈が描出されていたので足底動脈にバイパスする方針とした。対側の大伏在静脈（non-reversed）を用い左膝下膝窩-内側足底動脈バイパス術，左第 1 趾基節骨切断術を施行し，術後のバイパスグラフトの拍動は良好であった。しかし，第 6 病日にグラフト閉塞をきたしたため，血栓摘除術を施行した。末梢側動脈の攣縮がグラフト閉塞の原因と推測された。その後はグラフト開存し，第 1 趾切断端は治癒した。